

## 「我孫子市子どもの学習支援ネットワーク講演会」のご案内

今日、少子化が叫ばれ、子どもと家庭への様々な支援が進められています。しかしそこでは子どもの生活や学習がどれだけ守られ、豊かになっているのでしょうか。現実的には生活困窮や不登校、保護者のケアなど種々困難な問題が日々報道されています。コロナや災害の報道の中でも子どもたちの深刻な生活の状況が伝わってきます。

講師の宮本みち子先生は、コロナ感染拡大が始まる直前、発足直後の「我孫子市子どもの学習支援ネットワーク」が主催したキックオフ集会にお招きして「すべての子どもが生きられる社会を」というタイトルで講演をいただき、私たちは大きな啓発を受けました。宮本先生は、主に“子どもや若者の生活と権利の問題”を研究し、千葉大学や放送大学で教鞭を執ったほか、「中央教育審議会」委員や「内閣府子どもの貧困対策に関する有識者会議」座長等も歴任しています。

コロナ禍の期間、大人の労働環境だけでなく、子どもたちの生活と学習環境も大きく変わりました。受験競争が拡大する一方、生活困窮や不登校、ヤングケアラーの問題などが重なって、学校での学習が「にがて」とか「わからない」と訴える子どもが増えています。私たち学習支援ネットワークでは地域の放課後の学び場づくりや、「不登校」の子を持つ保護者の皆さんと連携して居場所を広げるなどの地道な活動を続けてきました。

今後も、SDGsにもある「誰一人取り残さない」子ども支援を目指し、多くの皆様とその輪を広げていきたいと考えています。そのために今回の講演会をとおして、私たちは我孫子のより豊かな子ども支援のあり方を考え、学び合いたいと考えております。

どうぞ皆さまお誘い合わせの上ご参加下さいますようお願いいたします。